

# グループ学習の実践報告

樟蔭中学校・高等学校英語科教諭 下井田由美子

## 1. はじめに

以前からグループ学習に関心はあったが、実践には至っていなかった。今年度、学内のグループ学習スタディーチームのメンバーに入ったこともあり、ペアワークやグループワークを取り入れた授業を実践してみた。

現在、教科書で扱われる文章は長くなり、集中力を持続させ、一斉授業で生徒の学習意欲を維持させることが難しい状況にある。ただ、グループ学習を通じて「学びの共有」ができれば、生徒の学習に良い影響を与えられるだろうという思いが予てよりあった。そこで「読み物」を味わう授業の中で「紙芝居を制作し発表する」という取り組みを行うことにした。

生徒が主体的に取り組んでくれるのかという一抹の不安はあったが、生徒たちは非常に前向きな反応を示してくれ、積極的に授業に参加してくれた。

具体的な内容については後述するが、平成25年度3学期、平成26年度2学期に各1回実施した。2回目の取り組みでは1回目の反省を踏まえての実践になったと考えている。

## 2. 実践報告

### 【概要】

テーマ：紙芝居制作発表を通じて、英語の「読み物」に親しむ。

ねらい：A. 「読み物」を扱う授業への主体的な参加を促す。

B. 音読することにより、英語の音声に慣れる。

C. 英語の「読み物」を日本語を介さずに読む。

教材：【実践①】

New Crown 2 Further Reading 2 Zorba's Promise

【実践②】

New Crown 3 Lesson 6 USE I Have a Dream

対象：樟蔭中学校2年K組(19名)【実践①】

3年K組(29名)【実践②】

内 容：グループ(5～6人)ごとに紙芝居を制作し発表する。

授業期間：平成25年度3学期(2月中旬) 【実践①】

平成26年度2学期(11月上旬) 【実践②】

配当時間：7～8時間

授業計画：①音声を聞かせてのイメージ作り・役割担当決め

1時間

②紙芝居制作

(教科書を参考にイラスト描写・本文写し) 4時間

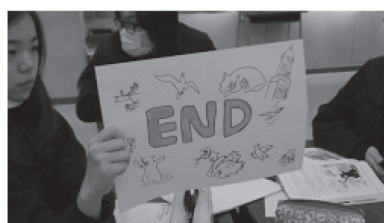
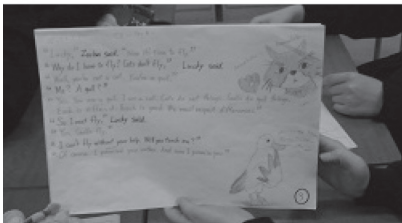
③音声を聞いて発音練習・グループ別練習

2時間

④発表・相互評価シート記入

1時間

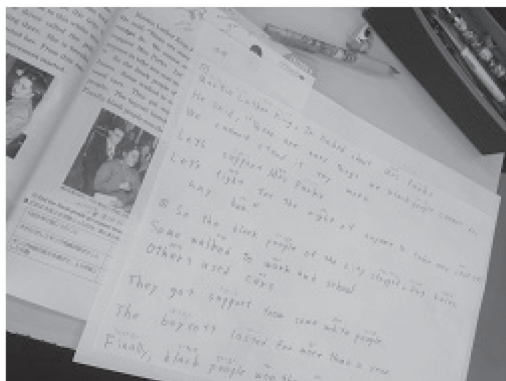
### 【授業風景：実践①】



①音読練習⇒②捲る練習⇒③ナレーションの挿絵⇒

④ THE END

## 【授業風景：実践②】



①紙芝居制作⇒②音読担当決め⇒③音読練習⇒④本番前の確認

### 【生徒相互評価シートより：実践①②共通】

①自班の評価（役割を果たせたか、協力できたかなど）

《良かった点》

- ・全員読む速さを変えずに読めた
- ・囁まずに発音が上手にできた
- ・全員で題名を大きな声で読んだ
- ・紙芝居のイラストを立体的にした
- ・紙芝居を捲るとき、スムーズにできた

### 《反省点》

- ・少し詰まってしまった
- ・もう少し声を大きくしたほうが良かった
- ・声色を変えたりすればよかった
- ・「あっ、間違えた！」と声を出してしまった
- ・読むところが途中で分からなくなって止まってしまった
- ・THE END の紙を作っておけば良かった
- ・イラストを濃く描けば良かった
- ・紙芝居を捲るのがうまくいかなかった

### ②他班への評価（読む速さ、声の音量、話し方、イラストなど）

#### 《良かった点》

- ・楽しく紙芝居に取り組んだことが分かる程、チームワークがとてもよかった
- ・欠席者のところもきちんとできていた
- ・声量もありテンポよく読めていた
- ・題名をみんなで言っていた
- ・絵が工夫されていた
- ・見やすく紙芝居を持っていた

#### 《アドバイス・気になった点》

- ・詰まらないようにもっと練習したほうがいい
- ・もう少しゆっくり読むのがいい
- ・全体的に声が小さく感じた
- ・紙芝居を捲るのが遅かった
- ・発表中に話しているのが目立った
- ・イラストの色が薄かったので、カラフルにした方がいい

### ③感想・要望・意見など

- ・紙芝居を通して色んなことを学んだ
- ・英語での紙芝居は初めてだったが班の皆とできて楽しかった
- ・普段あまり話さない子とも話せて良かった
- ・楽しく本（教科書）を読めて良かった

- ・自分の役割を一生懸命果たしていたので良かった
- ・ナレーションは長かったのが難しかった
- ・登場人物の高い声を出すのが難しかった
- ・練習より本番は大きな声を出せた
- ・発音が上手な人が多かった
- ・各グループの色々な絵を見て、ぜんぶ個性的で楽しめた
- ・作っている時も、発表している時も楽しかった
- ・久しぶりに皆で協力してできたので楽しかった
- ・絵を頑張って描いたし、読むのを何回も練習して本番ではできたのでよかった
- ・発表をして紙芝居を作る楽しさを知った。苦戦することもあったが、何とか完成できてよかった
- ・初めてで緊張したけど、楽しかった
- ・作品を協力して仕上げることができた

## 【授業者のまとめ】

### 《効果》

- ・表紙や THE END など作るなど工夫を加え、主体的に取り組めた。
- ・相互評価することで、発表時に真面目に取り組む雰囲気が生まれた。
- ・発音の重要性を呼びかけていると、音声 CD で発音チェックをしたいと生徒から申し出があった。正しい発音を意識させるきっかけとなった。
- ・リーダーを通じて指示をすることで、グループ内の団結力が高まった。

### 《課題》

- ・必要な指示はリーダーを通じて行う。
- ・生徒の発音練習の時間を増やし、生徒が自信を持って発表できるようにし、授業者は発音チェックに徹する。
- ・人前で発表に慣れてきたら、暗唱できるまでの読み込みをさせながら、ネイティブによる発音チェックや読み方の指導の機会を設ける。

### 3. おわりに

主体的に学習に取り組むきっかけ作りとして、グループでの紙芝居制作を中心にした授業を行った。生徒からは「久しぶりに皆で協力してできたので楽しかった」「読むのを何回も練習して本番ではできたのでよかった」という感想が出てきたことは、嬉しい限りである。学習の動機づけが主体的な学習の促進につながった結果と考えたい。また教え合いによる相乗効果で授業は活気づき、臆せず人前で発表する生徒も増えた。

ただ低学力層の生徒には、さらなる学習効果を体感させる必要があると考えていたが、これには「音読」が有効であると確信を持つことができた。というのは、定期試験で紙芝居の教材で扱った本文を適語選択問題として出題し、正答率が7割を超える結果が出たからである。音読練習を重ねて本文に慣れることで、英文への拒否反応が軽減し、学習意欲が高まったと考えたい。

今後の課題は作業が早く終わった生徒への対応である。例えば本文暗唱を課すなど、負荷を与えるのも一案かもしれない。無論、「させる」でなく、能動的な取り組みになるような「動機づけ」が必要になると思う。その点については、生徒との対話を通じて策を練っていききたい。